

## 【講義と演習⑧】10月8日

### 【演習1】

里美さん（14歳、中学校2年生）は、最近、遅刻や欠席が目立っています。入学した直後から、学習の遅れが目立ち、学校を休みがちとなりました。最近では、生活リズムも崩れているようで、休み時間には人目をはばからず机に突っ伏して寝ている等の様子も見られます。

里美さんの様子を心配した担任教諭が、里美さんから話を聞きました。里美さんは、「中学に入って授業についていけず、相談できる先生や友だちもいなくて、学校に来るのがつらくなった。高校に行きたいけれど、何をどう勉強したらよいかわからない」と語りました。また、「父親がほとんど働かず、母親が朝から晩まで働いていて、家に帰っても一人ぼっちだから誘われると遊びに出てしまう」ということも話してくれました。

里美さんの担任教諭は生活指導教諭と一緒に、母親と面接をすることにしました。母親の恵子さん（46歳）は、パートの昼休みの時間に中学校に駆け付けてきました。恵子さんと面接をしたところ、「娘の素行が乱れていて、最近は夜になると遊びに出かけて明け方まで帰ってこない日もある」等の状況を大変心配していました。しかし、「夫の仕事がうまくいかなくなって以降、家計を支えるために三つのパートを抱えてとても忙しい毎日を過ごしているため、自分のことで精一杯だ」と語りました。また、「自宅で夫と口論が絶えないため、その様子を見て娘が自宅にいたくなくなったのだろう」と、娘の気持ちを察していました。

生活指導教諭は恵子さんに自立相談支援機関について情報提供し、「家族の生活再建のために相談してみたらどうか」と提案したところ、恵子さんは「そんなところがあるとは知らなかった。夫の仕事のことなどについても相談できるならお願いしたい」と話しました。生活指導教諭は、再度、学校で面接を行うこと、その際には自立相談支援機関が同席して恵子さんが直接相談できるよう、連絡しておくことを母親に約束しました。

次の面接では、自立相談支援機関の相談支援員が相談支援の目的や具体的なすすめ方等を説明して恵子さんから改めて相談申し込みと関係機関と情報を共有することについて同意を受けた後、恵子さんから家庭の状況を聞き取りました。

（グループワーク1：初回面接）